

理研会報

発行日：平成27年2月28日
号数：No. 371
発行：印旛地区教育研究会理科研究部
HP：http://rikainba.com
メール：rikainba@yahoo.co.jp



平成26年11月1日2日に千葉市の各会場で第64次千葉県教育研究集会が行われました。印旛からは夏の印教研で小学校3部会、中学校5部会が推薦され、松本先生（千代田中）、佐々木先生（四街道中学校）、門脇先生（原山小学校）、菅原先生（原小学校）の4名が研究発表を行いました。その結果見事小学校はメインレポーターとして、中学校はサブレポーターとして全国教研に参加することになりました。

今年の全国教研は2月6日～8日に山梨県を会場に実施されました。今回の理研会報では、全国教研に参加した先生方からの感想等を掲載いたします。



（全国教研理科教育分科会会場にて）

四街道市立四街道中学校 佐々木 慶太 先生

今回、全国教研という大舞台に参加することができ、ここまで支援してくださった先生方に大きな感謝をしたいと思います。また、全国において実践されているさまざまな授業研究や、そこにある先生方の思いなど、たくさんのことを勉強する絶好の機会となりました。

議論の中心として、そこでは持続可能な循環型社会の必要性やエネルギー問題についての提案がなされていました。大きなポイントとしては福島第一原発の事故から放射線・放射能教育についてのあり方について議論され、現地である福島県の提案では、さまざまな情報が錯綜している中で、私たちは善悪ではなくありのままの事実を子どもたちに教えていかなければならないことを強く主張していました。一方で、埼玉県

の提案では、独自に研究を重ねて得たデータを元に、放射線がいかにか危険なものか、また、自らの学年で実践した防護策について主張していました。個々で考えるには重大すぎるテーマでしたが、理科教育を行う上で、どのような立場で教育していくことが正しいのか、その中で、指導者側の考えを押しつけるのではなく、子どもにも放射線について考える余裕を与えるべきではないか、という声もありました。知識を与えると同時に、風評被害にあっていた現地に住む人のことも考えなければならない、指導者の強い主張は、時に子どもの道徳性を失う教育にもなりかねない、など深く考えていかなければならないテーマだということに改めて認識する機会になりました。ここで得たものを、現場の子どもたちにしっかりと還元していきたいと思っています。

印西市立原山小学校

門脇 英貴 先生

2月6～8日の3日間、山梨県で行われた全国教研に参加させていただきました。各都道府県の提案は、全部で31本（小学校14本・中学校14本・高校3本）ありました。それぞれ理科を様々な観点や視点から捉えており、大変興味深いものでした。

その中で私は、実感を伴った理解を図るための理科学習のあり方～具体的な体験活動を重視した人体の学習（5年『人のたん



じょう』)～をテーマに提案してきました。参加者から

(写真は県教研での提案)



2月13日（金）に成田小学校にて第3回役員会と第2回研究員集会が行われました。役員会では今年度の活動報告や来年度の事業計画などが審議されました。

引き続き小学校、中学校にわかれ、研究員集会が行われました。小学校は千葉県教育庁北総教育事務所主席指導主事佐久間保男先生、中学校は八街市立八街中学校の大坊孝志教頭先生を講師にご指導をいただきました。来年度の研究主題や研究計画などが各部会から提案され、研究の方向性について、参加された先生方からいろいろなご意見をいただきました。各部会で今回の研究員集会を受けてさらに検討し、研究を進めていただきたいと思います。なお、次回の研究員集会は今年度同様6月上旬を予定しておりますので、夏の印教研集会での発表の中間報告ができるように見通しを持った活動をお願いいたします。

(写真は研究員集会の様子 右上は小学校 右下は中学校)

は「わかりやすく丁寧に授業を行っており、ぜひやってみたい実践である」などたくさんのご意見・質問をいただきました。共同研究者からは「自分の誕生のルーツを知るような学習で子どもたちにとって大きな意義があったと思う。子どもたちの感動の様子が伝わってきた」「さらに命について考えさせるきっかけにしてほしい」というご意見をいただきました。

今回の全国教研を通して、改めて子どもたちが主体となった教育が大切であることを考えさせられました。子どもの好奇心が躍動する「生きた授業」をめざして、これからもがんばっていきたくと思います。

このような貴重な機会を与えてくださった印教研、千教研理科研究部会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

